

これから 就活に挑む 若者たちへ

何かに、ひっかかりを感じる気持ちを 見つけたら、どうか大切にしていほしい

ウーマン・オブ・ザ・イヤーを受賞し、職場復帰支援サービスで起業

(株)ワーク・ライフバランス 代表取締役社長 小室淑恵さん (32歳)

仕事と生活の両立を考える「ワーク・ライフバランス」に、注目が集まっている。学生時代から、これに注目し、資生堂在籍時には育児休業者支援で社内起業。その後独立してさらなるサービスを提供するワーク・ライフバランス社長の小室淑恵氏が、就活体験を語る。

大学3年生までは 専業主婦になることが夢

大学3年生までの私は、腰掛けの就職をして結婚し、専業主婦になりたいと思っていました。当時のキャリアウーマンには、女性を否定している感じがおり、そんな女性になることに抵抗感があったのです。

しかし、大学の講義で猪口邦子(前・少子化男女共同参画担当大臣)

さんに会い、子育てをしながら、バリバリ仕事をこなす美しい女性がいることを知り、考え方が変わりました。そこで女性の労働環境の先進国であるアメリカを実際に見てみたいと、1年間休学して渡米しました。

証券会社勤務で育児休業中の女性宅にベビーシッターで住み込んだのですが、そこで驚いたのは、女性が復帰したときに職級が上がっていたことでした。休業中に通信教育で証券の資格を取ったことで、出世していたのです。日本では肩身の狭い思いで取得する育児休業を、女性の特権と考え、存分に活用する姿を見て、視野が広がったように思えました。

帰国して就活に入ったときは、社会で活躍する女性の姿を伝えたいと報道記者を志望、マスコミを受験します。でも、5社も最終面接まで行きながら、1週間ですべて落ちてし



まいりました。このときはショックで、しばらくぼう然としていました。そのとき母に「女性の活躍を考えることは、他の仕事でもできるじゃない」と言われ、目が覚めました。

結果、数社内定を得ましたが、最終的に資生堂に決めたのは、育児休

私の
就活体験

迷ったときはOB訪問 女性社員の印象が決め手

当時は超氷河期で、最初のマスコミ5社に最終面接までいきながら、すべて落ちたときはショックでした。その後の就活では、資生堂のほか、人材コンサルタント会社、広告会社などをまわり、迷ったときにはOB訪問をしました。面接も含めて、会った女性の印象を重視していましたね。

業制度など女性が働く環境が整っていたからです。また、面接者に自分が将来お手本にしたいと思えるような女性がいたことも、後押しとなりました。

ポジティブ志向への変身で 社内新規事業を立ち上げ

入社後は営業として奈良支社に配属されましたが、ここではコミュニ

PROFILE

1975年東京生まれ。日本女子大学卒業後、(株)資生堂に入社。育児休業者の職場復帰支援サービス新規事業「wiwiw (ウィウィ)」を立ち上げ、日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2004・キャリアクリエイト部門受賞。2005年退社後、2006年7月に(株)ワーク・ライフバランスを設立し、男女の育児・介護などの休業者の職場復帰をサポートする「armo (アルモ)」を開発。2006年「日本ブロードバンドビジネス大賞」を受賞。2007年、内閣府男女共同参画局男女共同参画会議専門委員に就任。一児の母。

<http://www.work-life-b.com/>



ケーションの大切さを学びました。

店舗の指導法について、自分なりに改善点を見つけ、上司に意見していたのですが、最初は全然聞いてもらえません。このころノートに、仕事で不満に思う「憤りリスト」をいつも書いていたのですが、3カ月も経ったころ、ふと伝え方が悪いのでは、と気づいたのです。

そして、書き込みの横に、ポジティブな表現で書き直すようにしました。「こうだったらもっと素敵なの

に」「このやり方はもったいない」など、前向きな表現に直して、その

言い方で人に伝えるようにしました。すると、支社の人や顧客に理解してもらえるようになり、業績も伸びて、支社長賞までいただきました。

その後、社内ビジネスモデルコンテストに、学生時代から考えていた育児休業支援事業を提案して優勝し、新規事業を立ち上げます。2006年に独立し、現在は、男女の育児・介護などの休業者の職場復帰を

サポートする「armo(アルモ)」のサービスを提供しています。

どんな夢や意見でも 仕事との間に関連がある

私が学生の皆さんに伝えたいのは、普段の生活の中で「何かおかしい」「不満だ」「もっとこうしたいほうがいい」と思ったことがあれば、ぜひその気持ちを大切に持っておいてほしいということです。強く思った

ことは、将来の、自分にとっての北極星(目標)になるかもしれないのです。

内容によっては仕事と関係がないと思うかもしれませんが、どんな夢や意見でも、仕事を始めてみると何らかの形で関連していることに気づきます。そして、そのことが将来働き続けることへの大事な原動力になることもあるのです。

私も、大学生のころ、今のような自分を想像できていたわけではありません。ですが、思いを忘れず、それを機会ごとに行動に移してきたことが、今につながっていると感じます。就活では、価値観の違う人との出会いから、新たな自分を発見することもあると思います。ぜひ、視野を広く持つてがんばってください。

■就活にのぞむ皆さんに贈る言葉

●企業の働きやすさデータを参考にする

最近ではマスコミでも、企業の働きやすさに関するデータやランキングが発表されています。男性にとってもいい指標です。

●迷ったら、生涯賃金で考えてみる

特に女性の場合は、いつまで働きたいのか、その期間によって損得は変わっていきます。

●認められない悩みがあれば、表現を変えてみる人が受け入れないときは、言葉遣いがネガティブになっていることが多いです。否定には否定し返ってきません。